

ホームヘルプ サービスで変わる 認知症高齢者のQOL

第3回 認知症の人の人権を大切にしたいケアの 具体化を図る



石川立美子

介護共育研究会 主宰／兵庫県介護福祉士会 会長／尼崎市ケアマネジャー協会 会長
大阪教育大学大学院修士課程修了／認知症介護指導者
主任介護支援専門員／介護福祉士／社会福祉士／認知症ケア専門士

民間訪問介護事業所にて訪問介護を実践の後、病院の在宅支援部門の介護支援専門員となり、医療との連携を深める。住み慣れた地域での暮らしを継続する必要性を感じ、社会福祉協議会介護保険事業の統括管理者となる。その後、特別養護老人ホームなどの運営に携わりながら、「共に育つ」をキーワードに、訪問介護従事者などへの教育、認知症の人を地域で支える啓発活動や支援者教育を展開。現場実践を理論化し根拠あるケアを確立するため、大学院で研究。家族の介護や長年福祉現場から得た豊富な経験・知識を基に実例を挙げた研修は、分かりやすく好評。

「認知症の人が不安に陥りやすい状況や心理状態を理解したコミュニケーション」を具体的に学ぼう!!

認知症の人は不安な心理状態になりやすいとよく言われていますが、それはなぜでしょうか？ 認知症の人には、記憶力、理解力、計算や調理などの生活能力の低下が見られます。そのため、さまざまな生活上の課題が発生します。つまり、毎日の暮らしの中でさまざまな困り事が起こり、さらに、思うように解決できないことが多くなるのです。認知症の人にとっては、自分では正しいと思っで行っていることが、周囲の人から制止されるのですから、混乱を招いたり、不安な気持ちになったりしやすいことは、容易に想像できるでしょう。

また、認知症の人は、自分の思いや行動の理由を言葉で伝えることが困難になりがちです。ですから、かわる人には認知症の人が訳もなく混乱しているように見えるさまざまな行動が、実際には、不安な気持ちを解消するために行っていることが多いのです。

認知症の人が、心理的・社会的・環境的变化に1人では対応できなくなることで、心理・行動の面で周囲との関係の悪化が生じてきます。私たちは、これらを解決し、できるだけ不安が解消でき安心感につながるコミュニケーションをする必要があります。

〈理解を深めるポイント〉

認知症の人が不安な心理状態になりやすい状況や心理を知る



- ・ 認知症の人の不安の解消や予防への支援
- ・ 認知症の人の安心と生活の継続
- ・ 介護者と認知症の人との信頼関係の維持

表 ● 認知症の人が不安になりやすい心理的特徴や状況

【記憶力】

●新しいことが覚えにくい

- ・今置いた財布の置き場所が分からない
- ・食事を食べたことが覚えられない
- ・説明を受けても、すぐに忘れてしまう

●部分的な記憶はある

- ・ダイヤモンドを買ったことは覚えているが、なくしたことは忘れている
- ・100万円ためたことは覚えているが、使ってしまったことは忘れている
- ・仕事をしていたことは覚えているが、退職したことを忘れている
- ・出産したことは覚えているが、50年前だったことは忘れている

●社会的に（本人にも）重要とされていることの記憶が、あやふやになる

- ・名前、生年月日、住所、自分の部屋
- ・家族の名前、顔、連絡先
- ・病歴、持病

【計算力】

- ・代金やおつりが理解しにくくなる
- ・必要な量が計算しにくくなる（調理の時などに、人数分の野菜の量が分からないなど）

【言語】

- ・言葉や文章が理解しにくくなる
- ・言葉が思い出せない
- ・適切な言葉が選べなくなる（みかんとりんごを言い間違える）
- ・単語をつないで長い文章にすることが困難になり、複雑なことを伝えにくくなる
- ・チラシや新聞が読めなくなる
- ・文字が書けなくなる

【理解力】

- ・時間、空間、場所、季節などが理解しにくい
- ・複雑な文章、手順、出来事が理解しにくい
- ・人との関係や人の顔の判別ができなくなる
- ・時計が読めなくなる

【感情】

- ・感性は鋭くなり、驚きや、戸惑い、疑い、こだわりなどの感情を感じる
- ・失敗が多くなり、自信がなくなりやすい

私たちがより良い認知症ケアを提供するためには、認知症の人が不安になりやすい心理的特徴や状況（表）を知り、それらの解消や予防のための支援となるコミュニケーションを図ることがとても重要です。

表に挙げたように、少し考えただけでも、認知症の人が不安になりやすい心理的特徴や状況がこんなにたくさん出てきました。ほかにもまだまだたくさんあると思いませんか。

認知症のある利用者とかかわる時、利用者の心の中の不安を感じることができていましたか。

「認知症の人は、みんな何も感じていない、あるいは感じにくい」と思っていませんか。

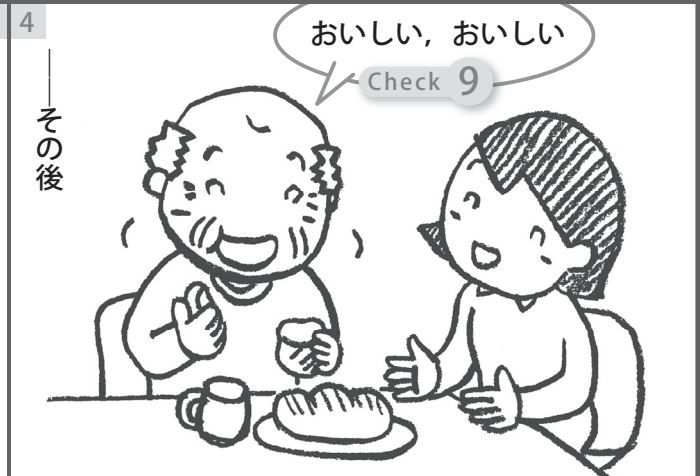
認知症の人の不安を受け止め、不安な気持ちの認知症の人が安心できるように支援するコミュニケーションが大切です。そうすることで、認知症の人を否定しない、認知症の人の人権を大切にされたケアの具体化を図ることができます。

では次に、AヘルパーとBさんのかかわりを例に、2つのケースを見ながらコミュニケーションのポイントを考えてみましょう。

AヘルパーとBさんのケース《失敗編》



AヘルパーとBさんのケース《成功編》





どこが違うのでしょうか？
詳しく見ていきましょう。

AヘルパーとBさんのケース《失敗編》

Check 1 おはようございます

Aヘルパーは、落ち着かないBさんの様子を観察せずに、機械的にあいさつをしてしまいました。

Check 2 今泥棒が来て、100万円を盗って



行ってしまったんだ！
Bさんの声の大きさにAヘルパーは戸惑ってしまいました。

Check 3 そうですか？

思い違いじゃないんですか？

Aヘルパーは、Bさんの気持ちを無視して、自分の考えを押し付けてしまいました。

Check 4 本当だ！ 泥棒が来て、100万円を盗って行ったんだ！！

Bさんは、Aヘルパーに信じられていないと感じ、ますます大声で叫びました。

Check 5 そうですか…

びっくりするほどのBさんの大声に、Aヘルパーは困惑してしまっています。

Check 6 お前だな！ お金を取ったのは！！

困ったAヘルパーの表情が、おどおどしているように見えたのかもしれませんが。Bさんは、Aヘルパーが盗ったのではと疑ってしまいました。

Check 7 違いますよ！！

Aヘルパーは必死に否定し、大声でBさんに説明しようとしています。しかし、それがまたBさんの不信や不安を増大してしまいました。

Check 8 泥棒！！ 泥棒！！

Bさんには、もう、Aヘルパーが泥棒に見えています。自分の近くに泥棒がいるのですから、不安や怒りで、大声で叫び続けるばかりです。

AヘルパーとBさんのケース《成功編》

Check 1 おはようございます

落ち着かない様子Bさんの様子を観察し、Bさんの目を見て穏やかにあいさつをしました。

Check 2 今泥棒が来て、100万円を盗って行ってしまったんだ！

Aヘルパーは、Bさんの声の大きさからBさんの困惑の大きさを感じました。



Check 3 泥棒が来て、100万円を盗って行ってしまったんですね

Aヘルパーは、Bさんの困っている状況を受け止めています。そして、Bさんの言葉を否定せずに、繰り返すことで、共感を伝えています。

Check 4 お金がないんだ！

Bさんは、Aヘルパーが気持ちを受容し、共感してくれていることが理解できたようです。Aヘルパーに困惑や不安な気持ちの中身を伝えることができました。

「共に育つ」教育指導を！ サ責の仕事塾2009 運営基準の確認と具体的役割を学ぶ

石川立美子氏 介護共育研究会 主宰

尼崎市ケアマネジャー協会 会長／兵庫県介護福祉士会 理事
主任介護支援専門員／介護福祉士／社会福祉士
認知症ケア専門士／認知症介護指導者

民間訪問介護事業所にて訪問介護を実践の後、病院の在宅支援部門の介護支援専門員となり、医療との連携を深める。住み慣れた地域での暮らしを継続する必要性を感じ、社会福祉協議会介護保険事業の統括管理者となる。その後、特別養護老人ホームなどの運営に携わり、現在は「共に育つ」をキーワードに、訪問介護従事者などへの教育、認知症の人を地域で支えるための啓蒙活動や支援者教育を展開。現場実践を理論化し、根拠あるケアを確立するため、大学院で研究。家族の介護や長年福祉現場から得た豊富な経験知識を基に実例を挙げた研修は分かりやすく好評。

大阪 09年 11/14 (土)
10:00~16:30
田村駒ビル

参加料 本誌購読者 15,000円
共に税込 一般 18,000円

関連法律を理解し、ヘルパー指導に自信を！

プログラム ★11230

1. 平成21年度の介護報酬改定の要点

- 報酬改定の意図するものは？
 - 短時間の訪問時の加算 ●特定事業所加算の要件見直し
- 報酬改定から見るこれからの訪問介護サービスとは？
 - 訪問介護員のキャリア支援は必須！
 - 認知症および医療に関する知識は必須！

2. 運営基準に基づくサービス提供責任者の役割

- 訪問介護計画立案のプロセスとは？
- 利用者の状態の変化を定期的に把握するとは？
- サービス担当者会議での居宅支援事業者との連携はできていますか？
- 訪問介護員へ利用者の状況を適切に伝達していますか？
- 訪問介護員の業務、能力を適切に把握していますか？
- 訪問介護員への研修および技術指導を適切に行っていますか？

3. 訪問介護計画の立案・記録・モニタリング

- 立案のポイントは生活課題を明らかにして対応できる資源を調整すること
- 記録は目に見えない介護を見えるようにするもの
- モニタリングは利用者の暮らしの変化量を確認するためのもの

4. 訪問介護員への指導および事業所内での教育体制

- 訪問介護員への伝達
- 訪問介護員の業務能力の把握
- 効果的な研修と技術指導

5. 地域によって異なる保険者への対応

グレーゾーンの扱いについて保険者に対して何を心がけるか

6. まとめ・質疑応答 (16:00~16:30)



具体例を交えながら、講師がさまざまな疑問にお答えします！

サービス提供責任者は利用者の状況を把握するだけでなく、実際にサービスを提供する訪問介護員の業務を理解し、その能力を見極め、技術指導していくことも重要な役割です。本セミナーでは、分かっているようで分かっていない運営基準を確認しながら、サービス提供責任者の役割について解説していきます。

Check 5 お金がないんですね！

AヘルパーはBさんの気持ちや語調に合わせて答えています。

Check 6 困ったよ！

Bさんは、Aヘルパーとの信頼関係を感じ、安心して困っているという感情を伝えています。

Check 7 困りましたね

AヘルパーはBさんの言葉を反復して、感情を優しく受け止めようとしています。

Check 8 そうなんだ!! パンが買えないんだ! おなかがペコペコだ!!

BさんはAヘルパーに理解されていると感じて、安心してさらに気持ちを伝えています。

Check 9 おいしい、おいしい

その後、AヘルパーとBさんは、笑顔で共に不安がなく安心した時間を過ごすことができました。



いかがでしたか。

職場でこの事例を題材に「認知症の人の不安になる状況」について話し合ったり、利用者とのやり取りを想定したロールプレイをしてみてください。

認知症の人を否定しない、「認知症の人の人権を大切にされたケアの具体化」に役立てていただければ幸いです。